

平成 24 年度自己点検評価結果

学 長

I 教育活動

・優れた点

- ① 学部教育系の教員就職率（進学者を除く）は 72.6%で、前年に続き 7 割を超えた。特に B 類は 74.1%で前年の 63.2%から 10.9 ポイントの大幅な増加となった。
- ② 修士課程の教員就職率（進学者を除く）は 50.7%で、前年に続き 5 割を超えた。

・検討を要する点

- ① 学部で志願倍率が 2 倍未満の選抜単位があった。
- ② 学部教育系で教員就職率が 6 割に達しない選修・専攻があった。
- ③ 修士課程で入学者数が定員に満たない専攻があった。
- ④ 修士課程で教員就職率が 5 割に達しない専攻があった。

II 研究活動

・優れた点

- ① 文部科学省特別経費事業で新規事業 2 件を含め計 9 件が実施された。
- ② 産学連携研究において共同研究 25 件、受託研究 1 件、寄附講義等 4 件の計 30 件が実施された。

・検討を要する点

特になし。

III 社会貢献活動

・優れた点

- ① 東京都教育委員会、小金井市教育委員会、小平市教育委員会、国分寺市教育委員会等を中心に、計 20 件の地域連携事業が実施された。
- ② 公開講座で 31 の講座が開設され、計 721 名の参加があり、講座数、参加者数ともに前年に比べ増加した。

・検討を要する点

特になし。

IV 国際交流活動

・優れた点

- ① 前年同様、東アジア教員養成国際コンソーシアム、モンゴルとアフリカにおける JICA 受託事業で成果がみられた。

・検討を要する点

- ① 外国人留学生数が学部、大学院あわせて 326 名で前年の 358 名と比べ減少した。

V 大学運営

・優れた点

- ① 国立大学改革強化推進補助金に基づく HATO プロジェクト（北海道教育大学（H）・愛知教育大学（A）・東京学芸大学（T）・大阪教育大学（O）の 4 大学連携）による教員養成開発連携機構の設置、本学の研究活動全体を統括し推進する教育実践研究推進本部の設置、本学の歴史に関する資料の収集・整理・保存及び公開を行う大学史資料室の設置などの点で顕著な成果があった。

・検討を要する点

- ① 施設の有効利用、特に学系間の研究室等の面積の格差とその改善について、監事から詳細な分析と提言がなされており、今後の改革に生かす必要がある。
- ② 大学教員の年齢構成に偏りがあり、30 歳代の教員が少ない。